

#### 94. 住宅団地の造成について

Q：定住対策としてなるべく早い時期に住宅団地を造成する予定はないか。

A：雲南市として5万人を目指している。そのために住環境の整備は非常に大切だ。市全体として財政を状況を勘案しながら宅地造成をしていきたい。(市長)

#### 95. 住宅建設について

Q：H14に海潮地内に住宅を建設する予定であったが、中山間地域直接支払い制度の関係で用地の転用が出来ず春殖に譲った。松江に近い、医院もある、幼・小・中も近い、地域資源も豊かでありまた、地権者の皆さんの了解も得ている。人口増、定住施策の一環で是非住宅建設に取り組んでもらいたい。

A：市の公社に手持ちの分譲住宅地がかなりある。全体を見渡してバランスを考慮しながら、継続案件を中心に検討対応していきたい。(政策企画部)

#### 96. 墓地公園の建設について

Q：安心して老後のことが考えられるよう、市で墓地公園を検討されてはどうか。

A：必要性について、これから考えていかねばと思っている。(総合センター)

#### 97. 下久野のサイレンについて

Q：下久野地区のサイレンが以前は11時半になっていたが、現在12時に2回鳴る。早急にもとの11時半に1回なるよう早急に対応していただきたい。

A：可能かどうか確認しお答えする。(総合センター)

#### 98. 成人式について

Q：今年、成人式を雲南市一本で実施すると聞いた。木次町では給食を出していて非常に好評であった。今年の対象者も楽しみにしており、今年はどのように実施するのか。給食については各町村の思いがまちまちであるが、子供達も楽しみにしているので是非実施してほしい。

A：成人式については8月14日三刀屋のアスパルで実施する。給食については、旧木次町で実施していたが、今回も実施したいと考えている。新成人が400名程度いるため方法については検討を要するが、給食については実施する。(教育委員会)

### 【防災】

#### 99. 雲南市の危機管理体制について

Q：近年、自然災害が多発しており、特に地震については新潟地震、九州玄海島地震等もあったばかりで雲南市でもいつ何時被害にあわないとも限らない。雲南市の危機管理体制はどうなっているのか。雲南市は特に山間部が多いので山崩れ、地すべり等、大きな災害となると思われる。また、万一避難した場合でも非常食の備蓄があるのか。一方阪神大震災が起きたとき、淡路島では死者が出なかった。救出にあたり、地域住民が一体となり、対応にあったと聞く。こういった体制も大きな備えと感じた。

A：現在、緊急の出動態勢はとれる体制はあるものの、地域防災計画は今年度中の策定を考えている。その中では地震、風水害、原子力等への対策を盛り込むこととする。特に地震については震度4で出動し、助役の判断で対策会議を招集し、さらに被害が甚大な場合は市長の判断で動員をしていくこと

としている。周知についても旧町村によりケーブルテレビを利用した回線や防災無線によるもの等様々だが将来的には経費負担の少ない、FMを使った周知の方法を検討したい。また、地域社会の連携を大事にしていくことも大切だと考えている。(総務部)

防災計画の策定と平行して雲南地域1市2町での総合防災訓練を9月に実施したい。また、地域の密着度が大切だということだがこれこそが雲南市が掲げる「市民が主役のまちづくり」ということだと思う。地域自主組織の組織化とその活動により「顔の見える行政」となる。特に加茂町の場合は6町村の中でも都市化傾向にあり、自治会に入らない世帯や民間アパートにお住まいの方がたくさんいる。こうした防災の面からも自治会への加入や活動の活発化を市全体として取り組みたい。(市長)

#### 100. 災害対策について

Q：昼間は老人のみの世帯も多いが、災害対策について伺う。

A：今年度より雲南市防災計画の策定に取り組む。県の審議も必要であり、約2年の期間を必要とする。それを待つわけに行かないが、現在初動マニュアルの策定に取り組んでいる。行政側の取組事項についてまとめて行きたいと考えている。(内田助役)

#### 101. 防災計画について

Q：防災計画の立ち上げはいつか。先日火災があったし、異常気象による集中豪雨や地震等が起きている。大東の南に断層があるらしいが。地域でもそれをもとに防災マップを作りたいと考えている。

A：防災計画は今年度着手するが、内容が膨大で県の審査も必要であり、早くても1年間はかかるのではないかと。防災マップについても議会で話が出ているところである。(内田助役)

#### 102. 斐伊川の流地木について

Q：斐伊川の下流域（里熊橋付近）に木が生えている。水害の際に気になるが。

A：斐伊川菟原堰の護岸が危険という指摘が国土交通省からあり、現在下熊谷側を実施している。今年度計画を立てて渇水期に工事を実施し、川幅を広くする計画が予定されており、災害に強い河川を目指している。流地木についても出来るだけ自然に近い状態とすることとしている。大きく延びるようであればその時点で対応する。(建設部)

#### 103. 防災無線について

Q：防災無線は昭和57年に設置され、かなり古くなっているが、新設、改修の計画はないのか。また、三刀屋以外で火災が発生した場合など放送してもらえないか。

A：現在、市内には大東、KKM、掛合の3つのケーブルテレビがあり、共通の放送を流したりしているが、一元化は今のところ経費の面で困難である。告知放送も無線、有線、ケーブルテレビとまちまちであり、今後どのように統一するか考えて取り組んでいきたい。

#### 104. 火災に関する放送について

Q：先日火災があったが、鎮火の放送は必ず行ってもらいたい。

A：深夜の火災であったが、2時15分に放送を行っている。

#### 105. 河川侵入路の整備について

Q：昨年5月合併前に、下佐中の集落から三刀屋川へ降りる道について陳情を行い、議会で採択をして合併いたしました。今年5月に市議員から今年は駄目だったと伺いました。責任者に対して理由等を説明していただきたい。

A：三刀屋川への道について、掛合町時代に陳情があり、採択されています。その後どこまで調査し、経過が今日あるか記録を探しこの場で答えることが出来ませんので、後日今月の16日にコミュニティ協議会の方に掛合町の市政懇談会の状況を説明し、併せてこの件についても説明いたします。(総合センター)

Q：採択されれば議会に毎年諮られますか。現在取りまとめられている要望に再度提出する必要があるか。

A：市の建設部にもこの話が具体的に上がっていない状況です。一度採択されれば必ず予算がつくということが約束されたものではありません。このたびの地域要望にも図面等をつけて経過等を記載して、地域の要望として提出いただきたい。(総合センター)

《その後の回答》

旧掛合町では平成16年1月に要望があり消防用道路として総務委員会で採択されております。従って総務部において回答されてはどうでしょうか。掛合町に問い合わせたところ他にも要望がたくさんあり保留としている現状だそうです。(建設部)

旧掛合町では、佐中地区以外からも複数の河川侵入路の要望がありますが、雲南市として、消防設備は防火水槽等の設備を中心とした整備を計画しており、消防用施設としての道路整備は想定しておりません。従いまして、掛合町佐中地区から旧掛合町に対して要望のあった三刀屋川への道路設置について、消防担当部局といたしましては、現段階として整備する予定はありません。佐中地区につきましては、防火水槽6基がすでに整備済みであり、また、平成15年度に整備した水路、郡橋付近の三刀屋川の利用で消防水利は確保できると判断いたしております。(総務部)

## 106. 消防団の年俸について

Q：消防団の年俸について、高いところ取りをしている。財政難なので痛み分けをする必要があるのではないかと思います。消防は、ボランティアの要素もある。予算が厳しいのにどうして高くなったのか聞きたい。

A：6町村の消防は飯石の団員報酬は、低く方でした。大原は高い状況でした。合併協議で団員数の調整も併せて行いました。団との調整が難しく、高いほうに準じたところです。当時財政が厳しいことも理解していたが今ほどではなく、このようになっている。こうした状況ならば低いほうに併せる方法もあったのではないかと思います。今のような金額設定になっております。(分科会)

消防団の年俸については、団員は普段の生活をもち危険な活動していただいているので、一緒になっていただく段階で低い設定はできなかつた。消防団、学校等のことについても時間をかけてあるべき姿にしたいと考えていますので、皆様のご協力をお願いします。

## 107. 治山事業について

Q：予算書を見たが、治山事業の割合が低いようだ。

A：治山事業は県営事業であり、市の予算に反映されていない。ご理解いただきたい。  
危険な地域があれば、情報をいただき、予算獲得に努めたい。